



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2010年（平成22年）6月25日号 No. 1499

目次

■ロシア原子力産業におけるBank Rossiya人脈	畔蒜 泰助	1
■ウクライナ原発部門への進出を強めるロシア	藤森 信吉	17
■トピックス		19
丸紅がイルクーツク石油と包括提携／19		
日本光電、ロシア医療機器販売大手と契約／19		
第1回日ロ官民石炭ラウンドテーブル開催／19		
■エトセトラ		20
『調査月報』2010年7月号のご案内／20		

ロシア原子力産業におけるBank Rossiya人脈

東京財団 研究員
畔蒜 泰助

はじめに

「エトセトラ」のコーナーで紹介しているとおり、今般発行された当会『ロシアNIS調査月報』7月号では、ロシア・NIS諸国の原子力産業の特集を組んでいる。実は、この特集に向けてはいずれ劣らぬ力作が集まったため、すべての論考を月報に載録することができなかった。そこで、月報原子力特集のいわばスピノフ企画として、異例の大部となるが、本速報では東京財団の畔蒜（あびる）泰助氏よりご寄稿いただいたロシアの原子力産業の人脈に関する論文をお届けする。

なお、月報7月号には藤森信吉氏による「ウクライナの原発と核燃料供給源 ―ロシア依存は続くのか―」と題する論文が掲載されているが、同論文脱稿後大きな動きがあったとのことなので、藤森氏からは補足情報をご寄稿いただき、本速報に掲載している。

さて、畔蒜氏によれば、「プーチンの友人たちの銀行」として知られるBank Rossiyaの最大株主であり、取締役会議長を務めるユーリー・コバルチュクとプーチン首相との関係は、1990年代初頭、当時のサブチャク・サンクトペテルブルグ市長の下で、プーチンが同市の対外関係委員会議長の任にあった時代まで遡るとい¹⁾。ここ数年のロシア原子力産業の再編・再統合の過程を丹念に検証していくと、要所要所で、このBank Rossiyaに深く繋がる人脈が重要な役割を果たしていることに気づくとのこと。ロシア原子力産業に張り巡らされたBank Rossiya人脈の実態を明らかにすることが、本稿の目的となっている。（編集部）